

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

学校名 **嬉野市立塩田小学校**

1 前年度 評価結果の概要
 ○校内研究では、NIE実践に対する肯定的な回答をした児童は85.5%であった。物事を分析し、自分なりの考えを引き出す力・条件に合わせて書く力を継続的に養う必要がある。
 ○新しい特別支援教育コーディネーターを中心とした体制づくりが整った。外部機関との連携を進めながら、一人ひとりの児童・保護者に合った指導・支援の工夫を進めていく必要がある。
 ○元来充実していた地域連携による体験活動は、コロナ禍の中、できる方法を模索して行うことができている。対話的で深い学びを実現するためには、活動のねらいを明確化し、職員全体で共通の認識を持つ必要がある。

2 学校教育目標
 元気に がんばる 塩田っ子の育成

3 本年度の重点目標
 ○対話活動とふりかえりを取り入れた思考力の育成と主体的学習習慣の確立
 ○特別支援教育の推進

4 重点取組内容・成果指標 **中間評価** **5 最終評価**

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者 (R3.4月現在)
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標 (数値目標)								
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上にする。	・GIGAスクールについて、職員全体で研修を行い共通理解し、実践を行う。 ・タブレット端末を活用した授業実践に、学期毎1回以上取り組む。							
	○対話活動を取り入れた校内研究実践の充実	○学校評価アンケートにおいて、話し合い活動等の実践に対する肯定的な回答をした児童を80%以上にする。	・全職員が対話活動とふりかえりを取り入れた授業研究会を年に1回以上行う。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・アンケートで「学校は道徳など心の教育に積極的に取り組んでいる」と答える保護者が90%以上をめざす。	・9月の授業参観で、全学級「ふれあい道徳」を実施する。その前後に、担任の願いや保護者の感想を、お便りにして保護者や地域に知らせる。 ・情報モラルに関する講演会を年1回行う。							
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの認知、防止のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員が100%になることをめざす。	・毎月こころのアンケートを実施し、丁寧な聞き取りを行う。 ・教育相談週間を、年1回以上実施する。							
	○あいさつ・返事の励行	・アンケートで「あいさつ・返事ができている」と答える児童・保護者が共に85%以上になることをめざす。	・あいさつや返事の仕方を具体的に指導するとともに、あいさつの意味について児童に理解させる。 ・保護者に対し、PTA総会や学級懇談会、学級通信、まちCOMIメール等とおして協働してあいさつ指導を行うような働きかけをする。							
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○学校評価アンケートで、「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」が実践できていると答える児童・保護者をともに85%以上にする。	・年2回、生活がんばりカードで「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」をチェックする。 ・養護教諭や専門家と連携し、SNSやゲーム依存症に関する保健指導を行う。							
	◎志を高める体験活動の充実	○アンケートで、地域の良さを見つけたことができたか答える児童と、学校は体験活動の充実に向けていると答えた保護者を共に85%以上にする。	・各学年で、外部や地域ボランティアと連携した学習活動を年2回以上行う。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限(月当たり45時間以内)を遵守する。	・プロジェクトが機能するように互いに声をかけ、仕事を効率よく分担し協働する。 ・定時退勤推進日(毎週水曜日)には、全職員17時15分までに退勤する。							
	○放課後の作業時間を確保する	○校時表の見直し等を行い、年に2回程度試行してみる。	・勤務時間内の放課後の作業時間を一人平均20分以上多く確保する。							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標 (数値目標)								
○特別支援教育の支援体制の充実	○特別な支援を要する児童や配慮を要する児童の理解や対応について、職員間でずれがないように共通理解を行う。	○アンケートで「困り感を持つ児童に対して、きめ細やかな指導・支援を行うことができている」と答える職員が90%以上になることをめざす。	・支援を要する児童の情報交換を、年5回以上行い、記録を蓄積する。 ・特別支援教育に関する研修会を年1回以上開く。							

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望